災害救援のトップページへ＞
これまでのNGOs KOBEの救援活動一覧へ＞

アフガニスタン救援委員会

最終更新日2003年07月11日

難民救援ニュースへ(～2002.3.28)＞ NEWS第1報～第9報へ(～2002.5.17)＞
NEWS第10報～第20報へ(～2002.7.30)＞
NEWS第21報～第30報へ(～2002.7.30)＞

アフガニスタン救援NEWS第46報 07月11日

■アフガニスタン　帰国報告　No.3

今回のアフガニスタン視察は、通訳として女性スタッフが同行しました。今回はアフガニスタンの女性について紹介したいと思います。

◆ブルカ

カブールへ入ってまず目に飛び込んでくるのが、鮮やかな青色のブルカを被った女性たちだ。バザールへ行くと黄色や白のブルカの女性もいるが圧倒的に青が多い。モスクの青に、空の青、そしてブルカの青、私にとってカブールは青色の街だった。ある女性と話しをすれば「ブルカを着ている女性はかわいそうだ」という。しかし、ブルカを被っている女性と話をしてみれば「あなたも着たらいいのに。綺麗になるわよ。」という。女性たちのブルカは一言で「かわいそう」と言えるものではない思いがした。

◆村の女性たち

ぶどうプロジェクトを行っているショマリ平原の女性たちが会いたいと言っていると別の部屋へと通された。そこにはいつのまに来たのか、6人の女性と、4人くらいの女の子が集まっていた。彼女たちはブルカを被らず、スカーフ姿だった。いつのまにか部屋は10人ほどの女性と8人の子どもがいて、女性の多くがおしゃべり好きだということは世界共通だと感じられるほど、会話と笑いで一杯だった。彼女たちの瞳は本当に優しそうだが、同時にとても力強さを感じた。

◆未亡人へのインタビュー

ぶどう基金で支援をする家族の中には25家族の未亡人家族が含まれている。その中の3人の未亡人に会うことができた。一人目の女性は、同じアフガン人とは言え、男性が家へ、しかも外国人と一緒に入ってくるということに動揺されていた。二人目と三人目の女性はブルカを被って現れた。全ての方に同じ質問をさせてもらった。三人ともが「タリバンとの紛争時代に夫を殺され、避難をしていたがタリバン政権が崩壊したので故郷に帰ってきた。彼女たちは昔からのぶどうの農園を少しづつ再建したいという希望をもち、今回の貸付金で、ぶどうのための水や働いてくれる人を雇用する資金にしたい。そして前のように普通の暮らしがしたい」と言われた。その後、私と彼女たちだけになると、彼女はブルカを上げ「ありがとう」という私に笑顔で「ありがとう」と言って手を握った。

＊「ぶどうオーナー」募集中です。お問い合わせはCODE事務局078-578-7744　パンフレットをお送りいたします！

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

アメリカ軍を主導として数ヶ月前からアフガニスタンではPRTs(州再建チーム)が活動をしている。しかし、多くのNGOは兵士が援助活動、経済発展プロジェクトに関わることは、人道援助活動と軍事的活動のラインが曖昧になり、民間の援助ワーカーに危険なリスクを背負わせることになると感じている。さらに、その要因のひとつとしてPRTsの学校や道路建設が、彼ら自身のプロジェクトと競争や矛盾がおこり、アフガニスタンのコミュニティの中で地道に関係を保ってきた関係を傷つけられるかもしれないということがある。記事全文は

CODEWorld Voice http://www.code-jp.org/wv/ 原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

---

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(07/11現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第46報 07月02日

■アフガニスタン　帰国報告　No.2

◆女性センター支援プロジェクト

第4次アフガニスタン視察の際に、決定された女性センター建設ですが、今回支援先のRBRO（ラビア・バルヒ・リハビリテーション・オーガナイゼーション）女性センターの所長、事務局、先生の方とお会いし話をしました。現在女性センターは、裁縫教室、保健コース、英語コース、識字コース、平和学コースなどのコースを行っているとのこと。現在は裁縫教室などで、冬物のジャンパーを作り、それらをバザールで売り、そこから教師などへの給料がでているという。しかし、カブールの土地の値段が上がっているために、今使っている女性センターの建物で活動を続けるのは難しくなってきているため新たな女性センター建設が必要となったということでした。今回、2人の若い女性の教師の方ともお話をしたのですが、彼女たち自身がもともと戦争から逃れてカブールにでてきた難民だったそうです。それも私たちがぶどうプロジェクトを行っているシャモリ平原出身の方でした。彼女たちは、ショマリから戦禍を逃れ、女性センターへ行きそこで学び、今では教師の側にまわったということでした。また、興味深いコースとして平和学というものを行っていました。これは、カブール大学を出た女性が先生で、彼女が教科書やカリキュラムを作って平和学を教えているとのことです。この先生は、タリバンに夫、息子すべての身内を殺されてしまったそうです。彼女が「家族の一人でも平和の大切さを知っていれば、家族の集まる時、ご飯の時などいろんな時に家族の他のメンバーへ話していくことで平和を作り出していける」という思いで始められたそうです。23年間の戦争の後、簡単に銃が手放せる状況にない今こそ、アフガニスタンの人自身が平和の大切さを勉強し、銃を手放していくひとつの方法として、こうした家族の中で平和の大切さを話し合っていくということは、とても希望に満ちたコースだと感じました。
次号はアフガニスタンの女性についてをお伝えしたいと思います。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

政府は国家連帯計画（NSP)のもと、4週間でアフガン国内の5,000村で集中的再建プロジェクトを行うと発表した。正式な開始は先週の中央バーミヤン州でのNSPが5番目の着工となる。"NSPはすでに5番目の州へと突入している。これまでにファッラー、ヘラート、カンダハール、バルワン、バーミヤンがある、そしてこれらは次の4週間で他の州全体へと広げられるだろう。"と村落復興開発省Mohammad　Hanif　Atmar　はバーミヤンでIRINに語った。政府によって設立されたNSPは各々自身の再建と開発モデルを鑑定、計画、運営、モニターするために民主的に選ばれた地元の機関を通してコミュニティのキャパシティの発展を目的とした3年間で6億ドルの計画である。記事全文はCODEWorld Voice http://www.code-jp.org/wv/ 原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

---

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(07/02現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第45報 06月23日

■アフガニスタン　帰国報告　No.1

6月8日からアフガニスタン救援委員会より村井雅清（被災地NGO協働センター）がアフガニスタンへ第5次視察に入りました。予定通り6月19日無事帰国しました。今回のアフガニスタン視察では、ぶどうプロジェクトが主な視察内容となりました。

◆ついにぶどうが！

アフガニスタンへついた翌日早速ぶどうプロジェクトが行われている首都カブールから北部にあるシャモリ平原へと行きました。一番にぶどう畑を見せてもらい、小さなぶどうの実を発見。新しいぶどうがすくすくと育っています。1年目は1本のぶどうの木から約5キロのぶどうが取れるそうです。3,4年目にもなれば、40キロから50キロはとれるということです。しかし、今は水不足の状態が続いており、水の確保がいそがれます。そして住民は既に出来た後のことを心配しており、今後、レーズンやワインの生産の方法なども考えていかねばなりません。

現地のNGOと4つの村から選ばれたシュラ(地方議決機関)と、ぶどうプロジェクトを協働組合方式で進めていくということが確認され、1年後には借りたお金に5%の利子をつけて返すということが決められました。まずシュラによって選ばれた300家族の方への配付が始まりました。私たちが現地滞在間に、218件への配付が終了しました。私たちの帰国後現地のスタッフによってすべて配付終了となりました。それらのお金は水、肥料、労働者など各家庭のニーズに合わせてぶどうのための資金として使われます。中にはこのお金でぶどうに水をやって、取れたぶどうをバザールで売ったら半年でお金は返せるという頼もしい声も聞こえてきます。
次号からは女性プロジェクト、アフガニスタンの女性についてをお伝えしたいと思います。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

食糧農業機関（FAO）は直ちに寄付金が供給されない限り、アフガニスタンの長期的農業開発計画は脅威のもとにあると警告を発した。「更に約$2,500万の追加がなければ、我々は今年の終わりまでに活動の70%以上を停止しなければならないだろう。これは我々が今援助している農業社会に影響を与えるだろうし、我々が更に多くの農家を支援することの妨げになるであろう。」と語った。FAOは今、供与国にアフガニスタンでの開発活動のための資金を提供するよう強く促している。
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(06/23現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第44報 05月12日

■アフガニスタン　第5次派遣(中間レポート)

6月8日にアフガニスタンへ旅立った村井雅清（被災地NGO協働センター）・斉藤容子（CODE）は、カブールを拠点に順調に活動を続けています。
現地で活動しているNGOやJICAとの情報交換を行ったり、10日からは「ぶどうプロジェクト」の舞台となっているショマリ平原へ入っています。

このプロジェクトは、ぶどう栽培の再生を通じてショマリ平原の地域の復興をはかるものですが、今回の訪問で無事に関係者との契約を済ませました。現在は地元住民の会議を経て決められた300世帯の支援先へ、苗の購入や労働力の確保など、栽培を再開するための資金融資を行っています。現地でプロジェクトの任に当たっているムスキンさんとシャリファさんと協力しながら、14日までに88世帯への支援を終え、16日中にも予定の300家族への最初の資金支援を終える予定です。
通訳として同行している斉藤容子は、伝統的に男女の接触が制限されている同国の中で、支援先の未亡人の方々へのヒアリングも行っています。先日は写真を撮らせてもらってよいかとおそるおそる尋ねたところ(人前で顔を出すのを避ける方が多いので)、みなさん笑顔で応じてくれて、写真を撮る手が震えてしまった、とのことでした。
現地のスタッフが非常に精力的に動いていることもあり、まずまず順調な滑り出しをしたといえそうです。

16日～18日までは、建造物の耐震構造訓練ワークショップ（主催:国連地域開発センター・アフガニスタン政府、共催:CODE）に参加する予定です。第42号のニュースでも触れましたが、2002年3月に起きた大地震からの復興課程にあるアフガニスタン北西部のナハリン支援も兼ねており、ナハリンの大工さんや石工さんをカブールに呼び、研修を行うものです。
帰国次第、皆様には救援ニュースなどを通じて、報告をさせていただきます。

■ぶどうプロジェクト　協力者募集中！
上の記事でも触れている「ぶどうプロジェクト」ですが、現在一口3,000円で協力者を募っています。報道機関にも再々取り上げて頂いていることもあり、徐々に広まってきていますが、今後4年間2,000万円の募金を目標にしていますので、継続して呼びかけを行っていきます。この度、事業概要を記したパンフレットをつくりましたので、ご希望の方にはお送りいたします。お気軽に事務局へお問い合わせ下さい。

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(06/16現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第43報 06月03日

■アフガニスタン　第5次派遣へ

6月8日から6月19日までアフガニスタン救援委員会より村井雅清（被災地NGO協働センター）がアフガニスタンへ第5次視察に入ります。アフガニスタンの視察はちょうど1年前に第1回が始まりました。1年間、アフガニスタンの人々と共に、どうすれば最も自立できる支援ができるのかと何度も話し合いを重ね、ようやくアフガニスタンでのプロジェクトが動こうとしているところまできました。それと平行して、アフガニスタンの国全体も、治安もまだまだ懸念される一方で、少しづつ復興の足音が聞こえてきました。雨が降り、川に水が流れ、農業が始まりました。私たちのプロジェクトのぶどう畑再生プロジェクトも支援者の輪が広がりつつあります。多くの方がアフガニスタンのぶどう畑に夢を抱いています。
今回の第5次派遣は、SFLとの学校、女性学校の調整、ぶどうプロジェクトの現地視察を行います。また16日～18日まで行われるアフガニスタン安全のための非工学精造に対しての訓練ワークショップに参加します。これは、2002年3月に起きた大地震からの復興課程にあるアフガニスタン北西部のナハリン支援も兼ねており、ナハリンの大工さんや石工さんをカブールに呼び、研修を行います。なお今回は通訳として斉藤容子（CODE）を派遣致します。
帰国次第、皆様には救援ニュースなどを通じて、報告をさせていただきます。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

数年来の旱魃でわずかに流れるにすぎなかった都市のカブール川が今再び流れている。ほとんど全てのカブール市民は川と何らかの関わりを持っている。バス停や店は両岸の下町にあり、川は首都の6つの主要な地区を流れ、都市を南西と北東に分けている。タリバン時代、川は旱魃の数年間でわずかに流れるだけのものとなり、地下水位は低下した。しかし、2月になって、雨が降りはじめ、3月には強く降り出した。4月には山の雪溶け水が水の供給に加わった。地下水位は70%～80%回復し、あと数ヶ月語には完全に正常に戻るだろう。多くのカブール市民は、電力や水の供給が期待していた程、改善されていないということに失望している。後者については、まだ4,5日おきに1日数時間だけに限定されている。これは多分に、何年もの戦争や略奪によって国の経済基盤がこんなにも悪い状態にあるという事実に起因するものである。発電所はひどく損害を受けている。そのようなポンプに政府は燃料を供給することができない。
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。
アフガニスタン救援支援者(5月26日入金まで/敬称略)
塚本(兵庫)津田(兵庫)森田(滋賀)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(06/03現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第42報 05月12日

■帰国報告レポート　その4
前号から4つのアフガニスタンプロジェクトを一つづつ紹介しております。
ナハリン地震被災地への大工・石工さんへの耐震構造建築技術取得研修及びインドグジャラート地震被災地の建築家・大工・石工さんとの実践共有交流プログラムの推進

2002年3月25日、アフガニスタン北部バグラン州ナハリンに大地震が襲い、約800人が死亡、そして約25,000戸が倒壊という被害が発生しました。当救援委員会は直ちに「ナハリン支援」を打ち出し、5月には、調査のため現地にスタッフを派遣、その後10月にも現地入りをしました。そして、今回の派遣によって6月にアフガニスタン首都カブールで、ワークショップが開催されることになりました。これは救援委員会ともこれまで共に現地入りするなど連携を取っている国連地域開発センターとアフガニスタン政府の主催で行われ、アフガニスタンプロジェクトを進めているCODEと現地のパートナーNGO「Shelter for Life」が共催をします。

このワークショップでは、政策決定に携わる人たちへアフガニスタン復興計画のためには災害管理という側面を組み込むことの重要性を理解、促進すること。そして、被災地の地元政府や、技術者、そして石工業者やコミュニティのリーダーらに対して適切な建築技術を提供することが目標とされています。そのため被災地のナハリンからコミュニティのリーダーや石工業者などを首都カブールへ招待をします。そしてまた、カブールに住む人々に対しても安全な設計を実践することを広めることもワークショップを通して期待されることです。

アフガニスタン救援委員会スタッフの村井もこのワークショップ出席、そして現地視察のために6月に再度アフガニスタン入りをする予定です。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

アフガニスタン開発機構(ADA)の車両が武力攻撃をうけたことで、ADAスタッフが殺され、一人が負傷する事件が、アフガニスタン中央部Vordak県で土曜日起こった。しかし、NGOはこの出来事に屈しず、活動を続けていくことを表明した。"事件はショックで悲劇的なことではあるが、私たちは地域への援助物資を運びつづけること、そして開発サービスをこれからも続けていく。"とAbdul Raziq Samadi（ADA所長）は月曜日にカブールで取材に答えた。警察は月曜日に容疑者8人を逮捕した。彼らは今年に入ってからの援助ワーカーや連合軍に対しての攻撃に関与している軍閥司令官ヘクマティアールの一味だと報じられている。
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。
アフガニスタン救援支援者(4月30日入金まで/敬称略)
淡路高校一宮校(兵庫)塚本(大阪)ひょうご南・NETWORKING(兵庫)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(05/12現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第41報 04月21日

■帰国報告レポート　その3
前号から引き続き、アフガニスタンにおいての展開しようとする4つの事業について、一つひとつ紹介します。

アフガニスタン・暮らし再建－「ぶどうプロジェクト」について
このプロジェクトは、アフガニスタンにおける23年間の戦禍のなかでも、最も悲惨な被害をもたらしたと言えるカブール州北部ショマリ平原を視察する中から生まれたものです。心から、「よみがえれ　ぶどう畑！！」と願っています。

そもそもショマリ平原は、アフガニスタンでもカンダハールに次いでぶどうの産地として有名な地域だったそうです。戦争が起こる前には、この地域から良質のワインも作られ、ロシアに輸出されていたとのことです。ところが2001年11月タリバンが崩壊する前の、北部同盟との最後の衝突があったところです。
この衝突で、家という家、畑という畑、貴重な水路（アフガニスタンでは、「カレーズ」といいます。）までもが破壊されました。そして生活の糧となるぶどうの木は、ほとんど焼き討ちにされました。今でも畑やカレーズには地雷が埋まっているとのことです。

私たちは、この地域を2002年5月、8月、10月そして2003年4月と視察し、生活の糧となる「ぶどう畑」の再生に取り組むことを決定いたしました。

アフガニスタンの新年の始まりは、3月21日です。今年は、例年になく雨が多く、北部のクンヅース地方や南部、またショマリ平原の中でも洪水が発生しています。また、ヒンヅークシュ山脈に覆い被さっていた雪も、少しづつ溶け始め、4月に入るといよいよ本格的な農作業がスタートしたようです。2002年5月では、畑を耕している姿はまだチラホラとしか見受けなかったのですが、2003年の今年になると、一度カブール市内や北部パンジシールに避難していた人たちが戻ってきており、農作業も活気をとり戻していました。

このプロジェクトが実施されるぶどう畑は、カブール州北部ショマリ平原南部に位置するにあるミール・バチャ・コット地域の4つの村に広がっています。初年度は、300家族からスタートし、状況を見ながら拡大していきます。
ぶどうの木は、この時期(3月末から4月)に新芽が出て、秋(9月から11月)には実がなって収穫できます。また、この時期に新しい苗を植えると、順調に育つと4年から5年後の秋には収穫が出来るそうです。最近は、3年くらいで収穫のできる新種もあるようで、その苗を植えている農家もあるとのことです。

この「ぶどうプロジェクト」には、とりあえず300家族が取り組みます。4つの村から各二人ずつ運営委員を選出し、自ら運営委員会を設置し、「CO－OP」（生活協同組合）のしくみを導入して、この300家族が相互に助け合っていくしくみにチャレンジします。

■ムスキンさん、シャリファさんレポート1（アフガニスタン現地担当者）
このプロジェクトを一緒に協働しているSFLから、「ぶどうプロジェクト」に参加する家族のリストが届きました。なんと、300家族のうち、14家族が障害者のいる家族で、25家族が戦争未亡人の家です。この地域の内戦がいかにひどかったのかを表していると言える数字です。「よみがえれぶどう畑」と、この地にやっと戻ってくることができた人々が新たに再建をすることを願って病みません。「CO-OP」（生活協同組合）というしくみの確立を目指しつつ、最初に必要な資金を支援します。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

4月20日、ショマリ平原の一部で洪水があり、Gorband川の水位が急激に上がったために、3人の子どもが行方不明となっており、200家族が防衛庁のヘリコプターで救出されるという事態が起こった。
アフガニスタン南部のHelmand州でも、洪水があり、最低でも30人の死者があり、家々が流される被害平原の一部でも洪水があり、Gorband川の水位が急激に上がったために、3人の子どもが行方不明となっており、200家族が防衛庁のヘリコプターで救出されるという事態が起こった。
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(04/21現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第40報 04月16日

■帰国報告レポート　その2
前号から引き続き、アフガニスタンにおいての展開しようとする4つの事業について、一つひとつ紹介します。

1,教育支援プロジェクト－2003年5月末学校建設着工、完成11月予定。
学校名: ボルカ・スクール
対象地域: バグラン州ナハリン地区ボルカ村など周辺5村250家族
対象児童: 400人、男女交代制で8クラスを作る。図書館も併設。

－地震後1年でもまだ学校がない－
ナハリンは、2002年3月に地震に見舞われた地域で、すでに昨年の3度のアフガニスタン視察でも見てきています。地震以来、丁度1年が過ぎたところですが、最も被害の大きかったナハリン旧市街地は、ほとんど手がつけられていないままです。また、直後のテントのままでの生活をしている人たちもいます。その中で、チラホラと再建を済ませた家もあるようですが数は少ないです。「1年も経っているのに・・・」とどうしても日本の物差しで見てしまうのですが、考えてみればインド・グジャラート地震の場合は2年が過ぎましたが、カッチ県バチャウなどは、まだこれからということなので、決して遅くはないようです。むしろ救急救命の時期が過ぎれば、事情が許す限り慌てずに復旧・復興に取り組む方がいい結果を生み出すようです。つまり、被災地域の当事者自身が復興の主役になって、その地域の住民自身が責任持って合意し、提案をすることが大切だからです。でも、学校再建などは急ぐ必要があるかも知れません。前回来たときに見ていたナハリン旧市街に建設されていた小学校は、丁度この4月が開校でした。(前回見たのは10月なので、冬の間はほとんど仕事ができないとして、半年以上はかかっているようです。)
こうしてナハリンの中心街にある小学校はもう完成したのですが、ナハリンから約20kmほどさらに奥に入っていったボルカという村では、未だに学校が建っていません。当委員会はこの地域に学校を建てることを前提に現地NGOと調整しており、今回の視察で場所が確定しました。5月着工で11月完成予定です。

－問題は、水の確保－
ただ、今の段階では水の確保ができていないため着工が遅れています。水は山の向こう側から数十kmもパイプを設置して引っ張ってくるか、井戸を掘るかという選択です。ただし、一度65mも掘ったが水は出てこなかったので頭を抱えています。もう一度しっかり水質・水脈調査をし、井戸を掘る必要があります。SFLは、WFP(世界食糧計画)との連携もしているので、WFPが進める「Food for Work」というプログラムに絡め、井戸掘りを仕事として、この村の人たちに就業機会を提供したいと考えているようです。
今は、どうしているのかというと山の向こうから運んでいるか雪解けの水を使っています。

－もともとこの地域は地震が多い。－
アフガニスタンの北部になるこの地域一帯は地震が多く、1998年にも北東部タカール州の地域で地震があり、当委員会はペシャワール会を通して支援をした経験があります。
今回地震のあったナハリンも、断層が走っていることが判り、この新たに建設しようとする地域は断層のない新しい地域で「ニュー・ボルカ村」ということになります。この地域には、周辺の5つの村から250家族が移り住んでくることになっており、現在は100家族が住んでいます。この日は、以前の学校で行事があったらしく、残念ながら対象児童に会うことが出来なかったのですが、ここに新しい学校が建てばそこに子どもを通わせることになる二人のお父さんと会いました。アフガニスタンの場合、学校といっても校舎などなく、木の下などの屋外で授業をしているケースも多く、図書館も併設されるということは、他の学校に比べて贅沢なのかも知れません。
完成は11月頃に予定をしていますが、この頃までに完成しなければ厳しい冬を越えなければ工事が中断することになります。なんとか11月には完成して欲しいと願って止みません。

次号では事業の二つ目である「ぶどうプロジェクト」を紹介します。
村井は今回のアフガニスタンでの感想という内容の長編レポート「アフガニスタン紀行」を作成しました。「ポストイラク」が報道される中で、「だからこそ今アフガニスタンを見なければ」という思いをこめてまとめたものです。読んでやろうという方は事務局までご連絡を!!

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

アフガニスタンで新たな教育の年が人々に門戸を開く学校が始まろうとしている。ユニセフに支援されているアフガニスタン教育省は、文房具や教材が学校の初日に間に合うように、子どもたちや教師に届くことを確認する努力をいっそう強めている。カブールのロジスティックセンターでの荷造りと配給の焦点は、アフガニスタン政府がどのように教育プログラムの管理を強めていくかということにある。昨年の荷造りは、アフガニスタン自身の限られた能力のために、パキスタンで行われた。教育者の技術の一部として、ユニセフは、尚、一層国内の能力を増加させるために、ロジスティックセンターで教育者の使用人に対して、供給管理、データベースの利用、倉庫の管理に対する指導を行っている。ユニセフは地方まで学校の資材を配給する教育者の能力を改善するために、地方や地域水準で300の倉庫の復旧も行っている。
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(4月10日入金まで/敬称略)
津田(兵庫)塚本(大阪)江口(兵庫)らいふ・すけっと(兵庫)中西(兵庫)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(04/14現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第39報 04月14日

■帰国報告レポート　その1
38号の当委員会ニュースでもお伝えしました事務局の村井が、3月26日から4月9日の日程でインド・グジャラート地震の2年後の現地を視察し、その後アフガニスタンというスケジュールで視察をし、4月11日無事帰国しました。丁度カブールに入る一日前の3月30日には、カブールの米軍施設にロケット砲が打ち込まれたり、カブールを離れているときにカンダハールでカルザイ大統領の友人が殺されたりという事件もあったようですが、そのためかあたかも戒厳令下のようなカブールも視察し無事帰国しました。本号のみで、今回の視察報告をすべて掲載できないので、何度かに分けて紹介したいと思います。

さて今回インド・グジャラート経由になったのは、今後アフガニスタンにおける支援事業を協働するパートナーとなるSFL(Shelter For Life)というカブールに事務所を置くNGO)のスタッフで、今年の1月末に神戸にも来たMr.ルトゥフ・ラハマンがグジャラート地震(2001年1月26日)のその後を視察することになっていたため、同行して一緒にグジャラートを視察し、カブールに入りました。

当委員会からのアフガニスタン入りは、昨年の5月、8月、10月に次いで4度目となりますが、村井のアフガニスタン入りは3度目です。今回の視察によって以下のような事業が確定しましたので、何回かに分けて、これからこのニュースで報告していきます。

確定した事業は
1, 教育支援プロジェクト(対象地域北西部バグラン州ナハリン・ボルカ村、対象児童周辺5村・約400人)
2, ぶどうプロジェクト(対象地域カブール州北部ショマリ地域ミール・バチャコット、対象200家族・周辺4村)
3, 女性自立センター支援プロジェクト(対象地域カブール市内、対象500人の女性)
4, ナハリン地震(2002年3月)被災地の大工・石工さんの耐震構造建築技術取得研修およびインド・グジャラート地震（2001年1月)被災地の建築家・大工・石工さんとの実践共有交流プログラムの推進。
です。この4つの事業について、いずれもアフガニスタン現地のパートナーNGOは「SFL」です。一つひとつの事業の概要については次号から紹介します。

また今回の視察で撮影してきた映像については編集をし、皆様に提供させて頂きますので、必要な方は申し出て下さい。また、「9･11から1年半のアフガニスタン」ということで、村井のなまの報告会もさせて頂きますのでぜひ声をかけて下さい。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

アムネスティインターナショナルは今日、アフガニスタン西部で起こった11人が殺される事態となった事件に対して緊急調査を求めた。そして、国内で続けられるアメリカ軍による爆撃で市民の死者や負傷者がでることがないよう万策をとることを求めた。"市民が安全に暮らすということはもっとも優先されなければならにことであり、このような悲劇を繰り返さないためにあらゆる手段を使うことを求める"とアムネスティインターナショナルは語った。アメリカ軍広報官によれば、4人の男性と7人の女性が亡くなった。アフガニスタン西部のバクティカ県、Shkin郊外にある彼らの家に爆弾が当たった。昨年からアメリカの爆撃によって死亡者数は増え続けている。"アメリカ軍は攻撃手段と軍の目標物選択において市民を保護するためにもっと注意深くするべきである"とアムネスティインターナショナルは言った。"それがアフガニスタンであろうと、イラクであろうと、市民の死亡が受け入れられるような戦争は許されるべきではない。"
原文はOCHA　リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(4月10日入金まで/敬称略)
津田(兵庫)塚本(大阪)江口(兵庫)らいふ・すけっと(兵庫)中西(兵庫)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(04/14現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第38報 03月25日

■アフガニスタンへ第4次現地調査派遣へ。
3月26日よりアフガニスタン救援委員会スタッフの村井雅清（被災地NGO協働センター）が第4次調査としてアフガニスタンへ前回と同様に国連地域開発センターの研究員とともに入ります。村井らはまずカブールでカウンターパートナーであるShelter For Life(SFL)と会い、今回の視察の目的のカブール「女性職業支援プロジェクト」のための女性センターの建設、地震被害地ナハリン、ボルカ地区での「学校建設プロジェクト」、カブール北部ショマリ平原での「ぶどう畑再生プロジェクト」などについての具体的な内容についての話合いを持つ予定です。現地でのローカルスタッフの確保も今回の視察の重要なポイントとなっており、候補者は既に数名挙げられているため、現地で面接を行い決定します。4月11日帰国予定となっていますので、帰国次第詳細なプロジェクト内容が皆様にお伝えできると思います。

■近づく春
アフガニスタンでもいよいよ新緑の季節が近づいてきました。寒い寒い冬がやっと終わろうとしています。3月21日には空爆開始以来2度目となる新学期がいよいよ始まろうとしています。北部では大雨が降り、洪水となり被害はでたものの、旱魃続きのところへの恵みの雨になったとのニュースもありました。これから秋の収穫へ向けての田植えが始まるでしょう。しかし、一方でアメリカ軍によるイラクへの攻撃が始まり、世界の目は今やイラク一色となっています。もちろんイラクへの攻撃が一刻も早くやむことを願うと同時に、アフガニスタンへの関心が更に人々の心から忘れられようとしているのではないかと心配されます。アメリカによるテロ掃討作戦という名のもとの空爆はまだに続けられ、イラクへの攻撃と同時期にアフガニスタン南部で大規模空爆があったと伝えられています。それだけではなく、アメリカ軍による人道援助調整機関PRT(Provincial Reconstruction Team:州復興チーム)なるものが全国8カ所で設置する計画が立てられ、既にバーミヤン、ガルデーズ地方で活動が始まっています。PRTs戦略と呼ばれるこの戦略は、米軍による人道的活動で、地元民の米軍への反感をなだめると同時に人道援助活動やNGO等との連携から効果的情報収集をすることが本当の目的といわれています。しかし、それによってNGOの人道援助と軍事作戦との境界が曖昧になることで、人道援助そのものが危険に瀕する可能性もでてきます。アフガニスタンで活動するNGO連合体ACBARはこの戦略に対しての批判メッセージを出しています。これに関する情報をJVC(日本国際ボランティアセンター)http://www1.jca.apc.org/jvc/がホームページへの掲載を予定しています。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。

ジャジャラバードの女性－Tamraid Village:私は三ヶ月前にペシャワール難民キャンプからジャジャラバード郊外の故郷の村の家に戻りました。私は1993年にアフガニスタンを発って以来そこに住みました。私はアフガニスタンに戻ってくるのにいかなる支援も受けませんでした。私は道で出会った数人の人たちと共に帰ってきました。私はこの村で生まれたからここに帰ってきましたし、ここで結婚したから戻ってきました。私は死んだ息子の3人の子供たちの面倒を見ています。彼らは皆7歳にもなっていません。私は一番年下の妹、義理の未亡人の娘、そして私の夫と馬小屋で3頭の牛と共に住んでいます。夫がとても病気がちなこともあり、家族の生活費を稼ぐ術がありません。時折、村が私たち家族のために野菜を分け与えてくれます。私は孫たちのことをとても気にかけています。彼らを学校へ通わせてやりたいのですが、この辺りに学校はないのです。私は母国に戻ってこれて幸せですが、私たち家族にとってはとてもつらいものです。私はアラーの助けを望んでいます。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■街頭募金活動
1月18日（土）関西学院大学のハビタットのメンバーを中心とした学生6人が川口能勢口で12時～17時までの街頭募金活動を行いました。去年もアフガン募金活動を行い、アフガニスタンを忘れてはいけないという思いで今年も街頭に立とうということになったそうです。時間は流れ、どんどん私たちの感じたことを風化させていきます。しかし、未だにアフガニスタンの一部の地域では空爆が続けられているのだという現状を学生たちと同じ思いで忘れてはいけないと強く感じます。
たくさんの募金をありがとうございました。

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(3月14日入金まで/敬称略)
戎(兵庫)津田(兵庫)中西(兵庫)塚本(大阪)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(03/25現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第37報 02月18日

■国際ワークショップ報告
これまでみなさまにも宣伝をさせていただいていました国際ワークショップ「地震へまけない世界へ向けてⅢ～ひと・まち・きずな～」が1月30日から2月1日までよみうり神戸ホールにて開催され、無事成功裏に終わりました。多くの方々が興味を抱きワークショップに参加してくださいました。みなさま、ご協力ありがとうございました。

1月31日には災害とコミュニティというテーマのもと、アジア6カ国の経験、そして市民とコミュニティの役割、災害と教育、そして市民主体への挑戦、神戸から世界へというトピックごとにプレゼンテーションやディスカッションが行われました。

2月1日のアフガンデーにはアフガニスタンの復興と現状、アフガニスタンのコミュニティ復興、復興のなかで災害につよいコミュニティをつくろう、そしてアフガニスタン記録映画「よみがえれカーブルの人々：1985年の記憶」の上映がありアフガニスタンで活動するNGOやアフガニスタンから来日された現地の方の話など様々な問題に関してのディスカッションが行われました。

そのワークショップのため来日していましたアメリカのNGO「Shelter for Life」のカブール事務所で働くルトゥフ・ラハマン氏がワークショップ終了後も今後の支援内容のミーティングなどのため滞在されていたとき、CODE市民参画部会の部会長であるコープこうべさんのお世話によって2月6日宝塚福祉・ボランティアセンターにおいてアフガニスタンのビデオ上映と報告会が行われました。そこでラハマンさんにも同行していただきお話をしていただくことになりました。Selter for Life は今後のアフガニスタン救援委員会・CODE・国連地域開発センターなどと共同して働くアフガニスタンの現地パートナーです。

この日宝塚コープセンターには約100人のボランティアさんや会員さんが集まっておられました。まず最初にアフガニスタンのビデオを見た後に、ラハマンさんから挨拶をしてもらい、後は会場から自由に質問をしてもらうという形がとられました。最初はとまどい気味だった参加者の方々はラハマンさんの挨拶に興味を抱き、いろいろと質問がでるようになりました。会場には特に50歳から60歳の方が多かったために、日本の戦争後の様子と今のアフガニスタンの様子を重ねておられるようでした。
印象的だったのは、講演終了後ひとりの女性がラハマンさんに話しかけてこられ、最初は今日はありがとうございましたというような挨拶だったのですが、少しお話をされている内にアフガニスタンの現状のことをラハマンさんとお話になられて涙をながしながらアフガニスタンに素晴らしい日々が一日も早く来ることを願っていますと話されていたことです。

そして参加者の多くが女性の方だったこともあり、女性の立場や支援に対しての質問が多く出されていました。ラハマンさんは多くの女性が困難な立場にあり、女性たちは何か物を欲しがっているのではなく家族のために働き稼ぎたいのだ、WFPは永遠に彼女たちを支援してはくれないとわかっている。だからこそ、彼女たちには自立する道が必要だと訴えておられました。そして女性の中でもアフガニスタンには未亡人が120万人おり、彼女たちのたいていが多くの子どもを抱えている。彼女たちの支援を最重要課題としなければならないと話されました。

現地の方の情報を直接聞くということは大変貴重な機会となりました。同時に現地の状況を一人でも多くの方に伝えたいと思っていたラハマンさんにとってもこのような場に参加できたことを大変喜ばれていました。参加者の方々にとってアフガニスタンをより身近に体験できる講演だったのではないでしょうか。現地の方からだけではなく、現地に実際に行って来た方でも、現状を聞いて知るということの大切さを感じました。このような場を持つことで少しでも多くの方に現状を知る機会ができれば市民によるアフガニスタン支援がもっと広がっていくと実感しました。

ラハマンさんは、「今のアフガニスタンは小さな子どもです。私たちには支援が必要です。でもいつか大人になってきっと困っている国を支援できるような国に成長します。それまでには長い年月が必要となるでしょう。でもきっといつか私たちはこどもから大人へと成長します」と最後に挨拶をされました。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。

首都カブールの北部に位置するショマリ渓谷には不気味なほとの静けさが立ちこめている。なぜならこの地域はつい最近まで静かとは程遠い場所でタリバンと北部同盟との戦争の最前線であった。

Qila Belund, Rabat-Qarabaghi や Qala-E-Khwaja　などの村は戦争の影響を多大にうけた。数万もの人々が彼らのコミュニティを追われ数千もの家屋が破壊された。ショマリ渓谷の55歳の住人Ghlam Sakhiや彼の甥Rahmuddin Huzruddin 22歳と話すと、怒りや悲痛に耐えた経験を聞くことになる。"ここでの生活は素晴らしいものだった。"とすぐ近くの畑が小麦やトウモロコシやぶどうで一杯たったころを思い出しながら語った。

しかし、戦争以前でさえもタリバンはこの地域を標的とし結果として大量虐殺をおこなった。現在ここに暮らす人々は地雷のせいで畑に足を踏み入れる時は注意深くならなければならない。加えて、干ばつにも悩まされている。収穫が以前の恵み深いものに戻るには何年もかかるだろう。
"何もなかった"Sakhi氏は彼と他の家族が2002年の始めにRabal-Qarabaghiに戻った時についてそのように覚えている。幸いにもここの村人たちには彼らのコミュニティをあきらめずに再建するという希望がある。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(2月10日入金まで/敬称略)
塚本(大阪)ひょうご南・NETWORKING(兵庫)貫名(広島)共立サービス(兵庫)高野(新潟)武井(北海道)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(02/18現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第36報 01月29日

■アフガン現地情報
12月30日から1月19日まで現地訪問を行った一人の青年からの現地報告の一部をご紹介いたします。

前回、僕は難民キャンプを中心にアフガン及びパキスタンを訪れました。そして、そこで子ども達の笑顔に出会い、日本の豊かさの中に隠れた子ども達の無表情や、自分達の生活の危うさをまざまざとリアルに実感したものです。
しかし今回は、多くの人の困窮する表情を見つめてきました。

誤爆の中で子どもや母親を亡くす。自分の息子は歩行障害を持つ大けがをしてしまった。
また、自身も片目を失明した。家は無惨に全壊し、全てのものは焼けてしまった。
数十年に及ぶ生涯を共に歩んできた妻を亡くし、自身も爆撃のショックで耳が完全に聞こえなくなってしまったハザラの老人。彼は、孫達も爆撃の時には怖がって部屋で震えていた、と僕に身振りで訴えてきました。そして、残された家族のほとんどが、今でも精神的な問題を抱えていると言います。

彼・彼女らは口々に私たちに言いました。
「外国人は、ここに来て写真を撮って、ビデオを撮って話を聞いて帰るだけ。誰もここには戻ってこない。誰も、私たちを助けてはくれない」と。

私たちは今まで何をしてきたのだろう。
そしてアメリカは、ここで何をしたのだろう。
そんな思いが、毎日頭の中を巡ります。

いつまた内戦が起こってもおかしくはないし、微妙な緊張感は街を歩けば分かります。そして、アフガンの人々は「今は、人々の関心はもうイラクだから」とあきらめたような表情で笑います。

継続的な支援が必要です。あらゆる戦いの中で家族を亡くし、家をなくした人々の補償も、まだまだ必要です。彼らの声に耳を傾けた支援が必要です。あらゆるものが、まだ必要です。

どうか、アフガニスタンの人々を忘れないで下さい。

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。
アフガニスタンカブールは本格的な冬を迎え、気温がどんどんと落ちている。カブールにやってきた国内避難民のほぼ4,000人が厳しい状態にある。避難民の殺到によって適切なシェルターと食糧が不足している。
"私たちはお茶をつくるための薪さえもない。"と3人の裸足の子どもを抱えた40歳の未亡人女性はカブールのHuzuri の国内避難民キャンプ地で語った。彼女の子どもすべてが風邪をひいている。もし雪が降り出せば、ここのキャンプ地の子どもの多くが死に至るであろう、と彼女は行った。"私たちは衣服や毛布、カーペットを必要としている"と寝るにはあまりにも失望的なテントを指さしながら語った。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■2003国際ワークショップ間近！
いよいよ今月末から国際ワークショップ「地震に負けない世界へ向けてⅢ－ひと・まち・きずな－」が始まります。阪神・淡路大震災の経験やこれまでの国内・海外災害援助で学んできたことを活かし、コミュニティや個人の立場に立って考える地域に密着した防災への取り組みを共に考え、分かち合いたいと思っています。

日時:1月31日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール
テーマ:コミュニティの持続性

日時:2月1日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール

アフガンデー
◇基調講演「アフガニスタンの復興と現状」
　　アフガニスタン住宅都市計画省副大臣　ナシル・サベリ
◇アフガニスタンのコミュニティ復興～現地から生の声
◇復興のなかで災害につよいコミュニティをつくろう
◇パネルディスカッション:アフガニスタンの明るい未来にむけた復興へ
◇未公開フィルム「よみがえれカーブルの人々:1985年の記録」上映会
　講演 映画監督　土本典昭(「よみがえれカーブルの人々」)

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

■募金活動
今月1月14日～16日にかけて外大活性化推進委員会による募金活動が神戸市外国語大学で行われました。その支援募金をアフガニスタン救援委員会へ寄付をしていただきました。ご協力ありがとうございました。

アフガニスタン救援支援者(01月22日入金まで/敬称略)
津田(兵庫)ひょうご南・NETWORKING(兵庫)馬場(大阪)中谷(兵庫)山本(愛媛)伊藤(兵庫)外大活性化推進委員会(兵庫)本田(山口)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(01/29現在・構成団体26団体)＞
外大活性化推進委員会/関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務所までお問い合わせください。

アフガニスタン救援NEWS第35報 01月07日

■アフガニスタン支援
最近ではアメリカによるイラク攻撃の準備が進んでいる報道のなか、未だに爆撃が続けられるアフガニスタンの報道は全くされなくなってしまいました。しかし、寒さが続くアフガニスタンでは攻撃が続くなかでの人々の「くらし」があります。20数年間の内紛で破壊されたアフガニスタンを私たちはまた忘れてしまうのでしょうか。今後のアフガニスタン支援はこれまでもお伝えしてきましたが、地震被害地のナハリンでは女性センター、学校支援。首都カブールから北西部へ30キロのショマリプレーンではコミュニティでの支え合い組合支援などを現地の人々と共に、カウンターパートを通して行う予定です。ガルデーズは現地が緊張関係が続いているために保留中となっています。

CODEではアフガニスタンプロジェクトが立ち上がり、現在支援が検討されています。そして、今後のアフガニスタン支援の募金として、アフガニスタン1コイン募金がスタートしました。これはいろいろなお店などで誰にでもできるポケットのなかの一個のコインを募金に入れていこうとはじまりました。この寄付についてはアフガニスタンの教育支援のための学校建設、及び女性センター建設などを通して女性の自立支援に使われます。
新聞やテレビではなかなか報道されなくなってしまったアフガニスタンですが、インターネット上では情報を得ることができます。
国連人道問題調整事務所（UNOCHA)リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。

アフガニスタン北部とバングラディッシュで広がる百日咳のために4,000人の幼児と子どもが生命の危険にさらされていると様々な国連機関やNGOらがアフガニスタンの政府や隣国タジキスタンと共に対策に当たっている。月曜日にWHOの疫学専門家のYon Fleerackersは"私たちは現場で、この状況を少しでもよくしようと、ベストを尽くしている"とIRINに首都カブールで語った。WHOは11月に発生してから17人の死亡を確認している。地域の状況は冬になり、ほとんどの基本的な保健用具をヘリコプターで輸送しなければならないために、ますます厳しくなっている。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■「かれーず」その4～くらし編パート2～
これまでに発行されてきました「かれーず」その1からその3に続き、「かれーず」その4～くらし編パート2～が完成しました。これはアフガニスタン救援委員会スタッフの村井雅清が現地でみた人々の「くらし」を焦点に置いたその3の続編にあたり、今回は「くらし」のなかでも、その中における「こどもの働き(労働)」に視点が置かれ、レポートされています。その1からその3までは1冊200円、その4は1冊100円で事務局で販売をしております。詳細は事務局までお問い合わせください。

■2003国際ワークショップ
地震に負けない世界へ向けてⅢ～ひと・まち・きずな～
国連地域開発センター（UNCRD)、国際ワークショップ実行委員会主催によるワークショップが開催されます。阪神・淡路大震災の経験やこれまでの国内・海外災害援助で学んできたことを活かし、コミュニティや個人の立場に立って考える地域に密着した防災への取り組みを共に考え、分かち合いたいと思っています。

日時:1月31日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール
テーマ:コミュニティの持続性

日時:2月1日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール

アフガンデー
◇基調講演「アフガニスタンの復興と現状」
　　アフガニスタン住宅都市計画省副大臣　ナシル・サベリ
◇アフガニスタンのコミュニティ復興～現地から生の声
◇復興のなかで災害につよいコミュニティをつくろう
◇パネルディスカッション: アフガニスタンの明るい未来にむけた復興へ
◇未公開フィルム「よみがえれカーブルの人々:1985年の記録」上映会
　講演 映画監督　土本典昭(「よみがえれカーブルの人々」)

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。
お問い合わせ・お申し込みはFAXかe-mailでCODE事務局までお願いします。
〒652-0801　神戸市兵庫区中道通2-1-10
tel 078-578-7744　　fax 078-576-3693　　e-mail info@code-jp.org

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(12月25日入金まで/敬称略)
山本(兵庫)神戸YWCAアフタヌーン・ティー(兵庫)佐藤(奈良)森田(滋賀)塚本(大阪)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(01/07現在・構成団体25団体)＞
関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務局までご連絡下さい。

アフガニスタン救援NEWS第34報 12月18日

■アフガニスタン報告
アフガニスタン現地報告、前号から引き続いておりますアフガニスタン、地震被災地ナハリン地区についての報告です。
－－－

□現地パートナーは「Shleter For Life」というNGO
Shelter for Lifeをパートナーとする上で最大の壁は、大規模すぎて小回りが利くのかということです。カブール事務所にいる事務局長クラスのMr.ラフマンはカブール大学を卒業したエンジニアですが、「現場第一！」というタイプのこわもての感じの人です。地震後4ヶ月現地に駐在し、今も2週間に1度は入っているとのことです。おそらくMr.ラハマンが最大のキーパーソンとなるでしょう。
□女性センターか小学校の建設を提案
当委員会としては、女性と子ども支援を優先してほしいと主張したところ、早急に検討しようという事になり、Mr.ラフマンが今週末に現地に入るので、早速、村の責任者や自治組織にも打診し、また中央政府の担当大臣にも内諾を取ると言ってくれています。早ければ11月中には、事業予算とプランが提案されるでしょう。
□ナハリン地区の伝統産業
ナハリン地区は伝統的なカーペット生産で有名な地域で、内戦前までは女性たちが伝統的なカーペットづくりをやっていたそうです。現在もそういう体制が残っているのか正確には分からないとのことで、「もし女性センターの建設が実現すれば、そこでのカーペット生産も可能になるでしょうから、是非次回、こちらへこられた時は、そのへんの情報を収集しましょう。」との事です。
理想的には女性センターという建物を造るだけで終わる事なく、そのセンターが女性にとって活発に利用されるように、カーペットづくり等の工房が一部屋でも確保されることでしょう。なんでもアフガニスタンでは、オリジナル・デザインもカーペットにデザインとして取り込める技術を持っているらしく、「あなたの顔写真を送ってくれたら、あなたの顔がデザインされたカーペットが出来ますよ」との言われた。
こちらからオリジナル・デザインを提案し、フェア・トレードが成立すれば理想と考えます。

■Mr.ラハマン来日！:2003国際ワークショップ
地震に負けない世界へ向けてⅢ～ひと・まち・きずな～
国連地域開発センター（UNCRD)、国際ワークショップ実行委員会主催によるワークショップが開催されます。阪神・淡路大震災の経験やこれまでの国内・海外災害援助で学んできたことを活かし、コミュニティや個人の立場に立って考える地域に密着した防災への取り組みを共に考え、分かち合いたいと思っています。

日時:1月31日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール
テーマ:コミュニティの持続性
◇災害とコミュニティ:アジア6カ国の経験、現状紹介
◇災害と市民～市民とコミュニティの役割～
◇災害と教育
◇パネルディスカッション～市民主体への挑戦　神戸から世界へ～

日時:2月1日　9:30～17:30
場所:よみうり神戸ホール

アフガンデー
◇基調講演「アフガニスタンの復興と現状」
　　アフガニスタン住宅都市計画省副大臣　ナシル・サベリ
◇アフガニスタンのコミュニティ復興～現地から生の声
・「内戦からの復興」ピースウィンズジャパンスタッフ
・「アフガニスタン復興における女性の役割」アフガニスタン女性課題省　ズーラ・ムクタル
◇復興のなかで災害につよいコミュニティをつくろう
　UNCRD/CODE/アフガニスタン救援委員会が取り込む復興プロジェクトを紹介し、アフガニスタンの復興を現地のニ　ーズにそって考える。

　災害につよいコミュニティづくり:プロジェクト概要　　UNCRD　ラジブ・ショウ
　住民主体の復興をめざして　　アフガニスタン救援委員会スタッフ　村井　雅清
　被災地における住宅づくり　　Shelter for Life カブール事務所　ルトュフ・ラハマン
◇パネルディスカッション:アフガニスタンの明るい未来にむけた復興へ
◇未公開フィルム「よみがえれカーブルの人々:1985年の記録」上映会
　講演 映画監督　土本典昭(「よみがえれカーブルの人々」)

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。
お問い合わせ・お申し込みはFAXかe-mailでCODE事務局までお願いします。
〒652-0801　神戸市兵庫区中道通2-1-10
tel 078-578-7744　　fax 078-576-3693　　e-mail info@code-jp.org

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。

アフガニスタンは干ばつと帰還民によって国際的な食糧援助に依存しなければならない状態である。食糧不足や住居の問題ヘルスケアや衛生問題もまた大きな問題である。今年は土地を耕すのに十分な雨が降った。収穫はあるが、それには新たに貯蔵するには十分ではない。また干ばつの状態の地域もある。そこではごく少量の作物しか育たない。今年末までには200万人近い人々がパキスタン、イラン、中央アジアから帰還するだろう。膨大な量の需要にも関わらず、食糧援助誓約は来年の必要量の半分である。WFP(世界食糧計画)が食糧のパイプラインを保つことは深刻な問題になっている。国の不安定さと交通の不便さはアフガン国民の援助にさらに問題を加えている。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン救援支援者(12月18日入金まで/敬称略)
高見(神奈川県)辻(滋賀)塚本(大阪府)大阪市役所労働組合(大阪府)島田(兵庫)中島(兵庫)太秦小学校(京都)ファミリーマート(兵庫)津田(兵庫)朝永(兵庫)ひょうご南NETWORKING(兵庫)喫茶アミー(兵庫)喫茶姉妹(兵庫)喫茶新星(兵庫)居酒屋いお里(兵庫)居酒屋ミキヤ(兵庫)松本(奈良)巣南町立西小学校(岐阜)

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(11/14現在・構成団体25団体)＞
関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務局までご連絡下さい。

アフガニスタン救援NEWS第33報 11月14日

■アフガニスタン報告
11月5日にアフガニスタンから帰国しました救援委員会の村井からの報告を掲載しています。今回の渡航の目的は2002年3月にアフガニスタン北西部に発生した大地震によってダメージを受けた、アフガニスタン・バグラン州、ナハリンを中心に視察し、当救援委員会がナハリン地区に対して行う救援の内容を内定することでした。今号はナハリンについてのレポートです。
－－－

□救援内容の内定
被害のあったナハリン地区まで行くにはカブール市内から片道9時間を要し、そのうち2時間30分ほどは砂塵を巻き上げ走らなければならない、"サファリ・ラリー"のようなもので、道路事情が最悪のコンディションでしたが、結局2日間を潰した挙げ句、現地視察は3時間という限られた条件のもと、被災地域の中で最も大きい町である、ナハリンの新・旧市街地しか視察する事ができませんでした。当委員会の要望としては、女性や子ども支援のプログラムを提案したいのですが、結局、帰国当日の最後のミーティングで救援の対象候補地が内定しました。

□地域
今回の地震地救援の中心となる村はBorkaかJugaのどちらかの村が予定されています。この2つの村は今回視察したナハリンよりさらに山奥に入ったところでBorka村は車で行く事が出来るが、「一往復すれば必ずメンテナンスが必要でしょう。」というほどの道路事情のようです。一方のJuga村は車を使用する事も、ロバを使う事も不可能で「歩いて一日かかるところです。」との事です。
Borka村は100%全壊の村だが、地震発生以来、誰もまだ救援には入っていない村だそうです。当委員会としては、まだ入っていないBorka村での救援の第一候補として今後早急に調整し、決定したいと考えています。しかし、効果のある救援活動を期待するには、現地でのパートナーが最も大事な要素となります。
その次に地元の行政組織と地元の自治組織(ジューラ)がその救援内容を認めるかどうかも重要になってきます。

□現地パートナーは「Shelter For Life」というNGO
Shelter For Life(以下SFLと略す)は、3月の地震後ナハリンに入り、住宅建設や学校建設を手がけているNGOです。ナハリンでは5,000戸の住宅建設が予定されており、ナハリン旧市街地では、男女共学の学校建設も始まっています。カブールに事務所を置いているが、現地ナハリンにも事務所を設置しており、現地スタッフが担当しています。この被災地には他のNGOも入っているが、現地スタッフを雇用し、事務所を置いているのはSFLだけです。私たちのように現地スタッフを派遣し、駐在させる力がない場合の最大の条件は、信頼できる現地のスタッフが確保出来るかどうかが大事なポイントです。そういう意味では、SFLが最良のパートナーと言えるでしょう。

次号に続く・・・

◇アフガニスタン勉強会◇
　日時:11月18日（月）16時から18時
　報告者:村井雅清（アフガニスタン救援委員会）
　場所:神戸YMCA(神戸市中央区加納町)
　参加費:500円
　お申し込みは事務局までお願いします。

■来週のよみがえれカレーズ
日時:11月19日(火)　18:30～21:00
場所:神戸市協同病院南館3階(神戸市長田区久保町2-4-7)
参加費:300円

■OCHA　リリーフウェブ　日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関する情報サイトです。
訳は事務局による仮訳です。

アフガニスタンナフリンに入っている国際赤新月社の最新レポートによれば、地震が起きた州の主な都市であるマジャリシャリフから264km（5.5時間)の所にあるプリコムリからナハリン地方までは74km（2.5時間)である。その地域は約90の村からできている。最も大都市で、地震の被害に一番あった地域は、ナハリン新・旧市街とそこから5km離れた所とJilgaの村である。ナハリン地域には約一万世帯がいる。赤新月社は、移動診療所、学校再建などを通して復興援助を行っている。ナハリンにある仮の緊急診断診療所は4月30日から6月20日の間日本からの赤十字のメンバーからなるチームによって支えられた。現在は男性医師、看護士、保育士、薬剤師が働き、診察、治療、保育教育が行われている。女性医師、助産婦が募集されている。仮の診療所は新しい施設が建てられるまでナフリンの人々にサービスを提供し続けるだろう。
そしてIHとの連携によって耐震性を取り入れられた学校が5校再建されることとなった。現在3校の工事が開始された。復旧するすべての学校には備品、井戸、トイレが備え付けられる。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■編集後記
先月末ニュースでアフガニスタンの学校が爆撃されるという事件を目にしました。ワーダック地方で4つの学校が未確認の人物による爆撃を受け、校舎と教材が被害を受けました。誰が何のためにしたのかはわかってはいませんが、地元の人々は激しい怒りを感じ、女子生徒はそのニュースに涙を流していたといいます。しかし、地元の住人は子どもたちに学校に続けて通わせる決心を表明し、子どもたちへの教育の願いは固いとユニセフが発表をしました。今、アフガニスタンで教育は一番必要とされているものといえるでしょう。これからのアフガニスタンを担っていく子どもたちに戦争のない世界を、武器で戦うことより他の選択方法を考える力を、そして豊かなアフガニスタンの大地を再び取り戻すための教育はなくてはならないものです。そこには私たちも学ばなければならないことや、もう一度考え直さなければならないこともたくさん見えてくるでしょう。教育だけではないいろいろな面で本当に豊かなアフガニスタンの大地のために一緒に学んでいければいいなと思います。

＜募金について＞
募金にご協力して頂ける方は、右記の郵便振替口座にて、通信欄に「アフガン支援」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同委員会NEWSでご紹介させて頂きます。皆さまご協力ありがとうございます。

アフガニスタン支援者（11/6までの入金分・敬称略）
江口（福岡）　中原（京都府）　鍵（京都府）　共立サービス（兵庫県）　佐藤（神奈川県）　貫名（広島県）　本城（大阪府）　つかちゃん、高田工業有志（神奈川県）　塚本（大阪府）　浦田（兵庫県）　津田（兵庫県）　ひょうご南・ネットワーキング（兵庫県）　レスキューストックヤード（愛知県）

口座番号:00960-2-12443
加入者名:災害救援委員会
＊通信欄に「アフガン支援」と明記してください。

アフガニスタン救援委員会(11/14現在・構成団体25団体)＞
関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス(カトリック大阪大司教区社会活動センター)/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい//たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ひょうご南・NETWORKING/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金
＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務局までご連絡下さい。

アフガニスタン救援NEWS第32報 11月06日

■アフガニスタンからの帰国
以下はアフガニスタン救援委員会スタッフとして現地に入っていました村井によるアフガニスタンレポートの一部です。
－－－
10月28日から11月3日まで3度目のアフガニスタン入りを終え帰国をしました。今回は3月末に発生したアフガニスタン北西部地震のあった北西部バグラン州に入り地震以後現地でローカルスタッフを雇用し住宅や学校建設を行っているShelter For Life　（NGO）の案内で最も被害の多かったとされるナハリン地域旧市街を視察し、当委員会としての救援内容を内定してきました。

□救援委員会としての救援内容が内定
昨年10月8日の米英軍によるアフガニスタンへの「武力による報復」としての空爆がきっかけとなり発足しました。当委員会はこれまで既にアフガニスタンでの難民支援等を行っている複数の日本のNGOに後方支援として資金提供をしてきました。

一方、今年の3月26日アフガニスタン北西部地震が発生し、甚大な被害をもたらしたことから平行して直接支援を追求し、5月と8月に委員会から現地へ視察団が派遣されました。今回のアフガニスタン入りで地震被災地バグラン州での救援プログラムが内定しました。

またもう一つの恒久的支援を追求してきたカブール州北部の通称ショマリ平原における「コミュニティーフォーラム」という手法を通しての「ぶどう畑再生支援」についても、具体的に「CO-OP」づくりを視野におきながらモデルプロジェクトを立ち上げるべくプラニングをすることになりました。こちらの方のプラニングはカブール市内に事務所をおくUNHABITAT(国連人間居住会議)のアドバイスを受けつつ、現地スタッフを確保し、UNHABITATが既にここショマリ平原で展開している住宅建設を通してコミュニティーフォーラムづくりとも連携しながら確保される現地スタッフがプラニングをすることにしています。

■「報復の連鎖」に対して「支え合いの連鎖」を広げよう！
3度目の今回もUNCRD(国連地域開発事務所)兵庫の研究室Mr.ラジブショウにインドからSEEDSとABYANというNGOから各1名加わり、当委員会からの私との4人のチームでアフガニスタン入りをしました。インドからの1名は2001年1月26日に発生したインド西部グジャラート地震の後、我々と共に再建活動をしてきたメンバーで他の一人は震源地ブージでネットワークNGOとして活動したABYANのエンジニアです。
この4人に加えてアフガニスタンではSFL(Shelter For Life生活のためのシェルター)やUNHABITAT、さらに地元のシューラも連携しながらプロジェクトが進むことになるでしょう。
「いま」まさに、KOBE－インド－アフガニスタンと支え合いの連鎖が広がろうとしているのです。

■まけないぞう！
震源地ナハリンで3時間も生き埋めになっていて奇跡的に助かったムスタファ君に「まけないぞう」をプレゼントしました。
ムスタファ君というのはまだ5，6歳の男の子で3月の地震では妹が亡くなったそうです。
「よく頑張ったね」と頭を撫で、丁度持っていた「まけないぞう」をプレゼントしたらとまどいながらも喜んでくれました。「支え合いの連鎖」は確実に次世代にもひきつがれていきます。

＊3度目のアフガニスタン現地報告については、このニュースを通して随時紹介していきますが現地入りした村井が＜感想＞という形でまとめているものがありますので必要な方は事務局まで申し出て下さい。また2度目のアフガニスタン入り後に「かれーずその三」として、くらしに焦点を置いてまとめた小冊子が発行されていますが、今回も「かれーずその四」として準備しておりますのでご期待下さい。新しい「その四」は子ども達の働きについて視点をおいた内容になっています。

◇アフガニスタン勉強会◇
　日時:11月18日（月）16時から18時
　報告者:村井雅清（アフガニスタン救援委員会）
　場所:神戸YMCA
　参加費:500円
　お申し込みは事務局までお願いします。

＊UNOCHA　リリーフウェブ日本語版は休ませていただきます。

■編集感想
上記にもありましたように「支え合いの連鎖」。最近では「連鎖」と聞けば「報復の連鎖」「暴力の連鎖」しか思い浮かばなくなってきていたように思います。この「暴力の連鎖」を聞くたびにどこまで続くのだろうと考え、ゾッとし、またかとため息をつかざるを得ません。しかし、「支え合いの連鎖」という言葉を聞いて、対抗できる唯一の手段となりうるかもしれないと期待を抱きつつあります。暴力で顔の見えない相手を憎むことではなく、まず出会って話して知っていくことが私も支え合いの連鎖に参加できる一歩なのではないかと思いました。もしそうであれば市民による国際交流は一番の原点ではないでしょうか。人種も国益も関係のないただ人と人とのつきあい。
「暴力の連鎖」から「支え合いの連鎖」へ私にもできることから加わっていきたいと思います。

アフガニスタン救援委員会（11/6現在・構成団体24団体）＞
関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス（カトリック大阪大司教区社会活動センター）/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい/たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金

＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務局までご連絡下さい。

アフガニスタン救援NEWS第31報 11月02日

■第10回アフガニスタン勉強会報告
10月31日神戸YMCAにてシャンティ国際ボランティア会（SVA）の市川斉さんをお迎えし、アフガニスタン勉強会が行われました。市川さんには神戸で既に3回の勉強会をしていただいています。

市川さんは9月1日から28日まで約1ヶ月間アフガニスタン、ナンダガルハル州やパキスタンの難民キャンプ地を視察してこられました。視察では主に学校教育、帰還難民についての調査につかれました。SVAは現地のNGOネジャットセンターと協力して、2001年12月から緊急支援活動のひとつの柱として「アフガニスタン難民子ども支援事業」を実施し、パキスタンにあるアフガニスタン難民キャンプにおいて子どもたちの緊急避難的なデイケアーを運営されています。

学校教育については、過去23年にも及ぶ戦争によって施設、教員、教材、教育行政などあらゆる面で大きな打撃を受けました。現在ではユニセフによるBack to Schoolキャンペーンによって2002年8月では小学校の就学年齢児童450万人のうち300万人が就学しています。しかし150万人の児童は学校へ通っていないといわれています。また現在就学している300万人の児童のうち、180万人の児童にしか学校施設、教材はゆきわたっておらず、120万人の児童は木の下やテントの下で学習しており、教材も提供されていない。このような状況のなかで市川さんが印象に残っておられたことは、学校を卒業し農業に従事している人々が、なんとかしなければという思いでボランティア先生をしているということでした。

帰還難民の状況は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の発表によれば、2002年9月末時点で170万人以上のアフガニスタン難民が祖国へ自主的に帰還したと言われています。しかし、実際にアフガニスタンへ帰還をしたけれども仕事も家もなく、結局パキスタンやイランなどへ戻る「リサイクラー」と呼ばれる人々が出てきて問題となっています。帰還難民の4割はカブールへ帰還していると言われており、人も多くなり、渋滞もひどくなってきているようですが、まだ建設ラッシュにはなっておらず人々は戦争の経験からまだ様子をみているという印象を受けられたそうです。

このような調査を受けて、SVAでは今後のアフガニスタンへの取り組みが決定される予定です。参加者の方々は大変人々の暮らしに興味をもっておられたようでいろいろな質問が出るなど有意義な勉強会だったと思います。今回残念ながら参加できなかった皆様も次回の11回アフガニスタン勉強会にご参加いただけましたらうれしく思います。

◇次回のアフガニスタン勉強会◇
　日時:11月18日（月）16時から18時
　報告者:村井雅清（アフガニスタン救援委員会）
　場所:神戸YMCA
参加費:500円
お申し込みは事務局までお願いします。

■リリーフウェブ日本語版
リリーフウェブは国連人道問題調整事務所から出されている人道問題に関しての情報サイトです。
訳文は事務局による仮訳です。

アフガニスタンの中央地域で土で作られた小さな家の前でマハマドヤコブはお茶を作り、妻はパンを焼いている。12人の家族が今日食べるものはこれだけである。ときどき卵数個と少しの雄羊のミルクがこの粗食に加えられる。彼らは元々山羊千頭、羊千頭、牛5百頭を持っていたが今ではわずか20頭の羊に20頭の牛、そしてロバがわずかに残っているだけになってしまった。彼らが生き残る手段は彼らが持っているすべてのものを少しずつ売っていくことしかないのだ。紛争で荒廃しているところに更に、干ばつが襲い、そこへ寒い冬が迫ってきているのだ。
原文はOCHA リリーフウェブ　http://www.reliefweb.int

■今週の『よみがえれカレーズ』上映会
日時:11月3日（日）11:15～13時頃まで
場所:カトリック堺教会（大阪府堺市向陵中町6-2-3）
参加費:会場献金
備考:上映後アフガニスタン救援委員会スタッフからの報告会あり

アフガニスタン支援者のみなさま（10月2日までの入金分/敬称略）
塚本（大阪）津田（兵庫）梅原（大阪）森田（大阪）共立サービス（兵庫）ひまわりネット（石川）ひょうご南・NETWORKING藤原（兵庫）カトリック高槻教会（大阪）カトリック大阪大司教区シナピス（大阪）フローラ・アスル開発英子（広島）

ナフリン地震支援者（敬称略）
戎（兵庫）

アフガニスタン救援委員会（11/2現在・構成団体24団体）＞
関西NGO協議会/神戸学生青年センター/神戸商科大牧野ゼミ/神戸YMCA/神戸ラブ＆ピース/コープこうべ/災害救援ネットワーク北海道/災害ボランティアサークル騎兵隊/シナピス（カトリック大阪大司教区社会活動センター）/週末ボランティア/震災を生きる宗教者のつどい/たかとりコミュニティセンター/小さな友の会/中部防災ボランティア/都市生活コミュニティセンター/日本青年奉仕協会/東から吹いてくる風/百番目のTシャツの会・藤沢/被災地障害者センター/被災地NGO協働センター/ブレーンヒューマニティー/ライフスペース・プロペラ/レスキューストックヤード/ゆめ風10億円基金

＊救援委員会への参画団体は随時募集しています。FAXまたはメールで事務局までご連絡下さい。

アフガニスタンの「いま」……ビデオ上映のお誘い 10月30日

あの世界を震撼させた9.11「米国同時多発テロ」から、アメリカブッシュ政権による「テロ掃討作戦」という名のもと、アフガニスタンでは今だ空爆が続いています。

その後、被災地KOBEから2001/10/6に「アフガニスタン難民・救援委員会」を発足その後2002/3/28より「アフガニスタン救援委員会」を立ち上げ、アフガニスタンの中長期復興へ向けた支援を開始致しました。国際社会に無視された国アフガニスタンが奇しくも国際社会に日の目を浴びたのが、あの9.11以後のアメリカ政府による空爆開始以来でした。

アフガニスタンは20年以上に渡る内戦、4年続きの干ばつにより人々の「くらし」はことごとく破壊し尽くされています。砲弾を受けた建物、焼けつくされたぶどう畑、干上がった大地、家族を失った人々……戦禍のなかそれでも子どもたちには希望があります。将来を担う子どもたちのために人々は前向きに「くらし」を再建しようと努力しています。その人々の「くらし」は「いま」どうなっているのでしょうか？

そして、国際社会に見離されたアフガニスタンへ、いま私たちができることを探してみませんか？現地を訪れたスタッフが、あくまでも人々の「くらし」に視点をおいて、撮影したビデオ（25分）をお貸しいたします。また、現地へ行ったスタッフの報告会（料金については要相談）等も可能です。アフガンに関する報告書や資料なども実費負担を頂ければご提供いたします。ご相談頂ければ、みなさんのご希望にもお応えしていきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

みなさんのご協力を心よりお待ちしています。

このページのトップへ戻る＞